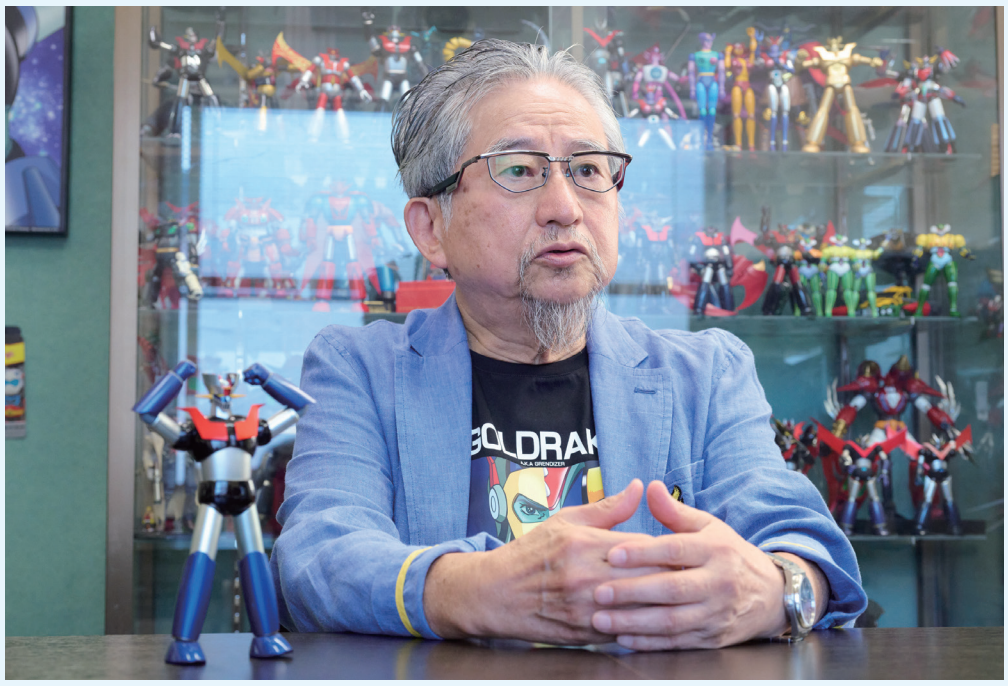
永井豪さんと考える災害と防災のこと

防災意識向上のため、11月に新宿区総合防災訓練を開催します。そこで、区内に事務所を構え、能登半島地震で故郷・輪島市が被災された漫画家・永井豪さんにお話を伺いました。この機会に、一緒に防災について考えてみませんか。

問区政情報課広報係☎(5273)4064



6歳で輪島から東京へ 事務所移転で新宿へ

最初に新宿区との関わりや、まちの印象をお聞かせください

生まれは石川県輪島市で、小学1年生の1学期まで住んでいました。夏休みに入ると同時に東京に引っ越してきたのですが、引っ越しと長期休みが重なったせいで東京は学校に行かなくていいところだと思って喜んでいたら、9月にはやっぱり学校が始まり、がっかりしましたね(笑)。

新宿といえば、子どものころは、映画を見るためによく通っていました。高校生になると、お小遣いをやりくりしながら3本立ての劇場を探して3館ぐらいはしごしたりして、夏休みには40本近く見たこともありました。

漫画家になってから、事務所を移転するとなった時、たまたまいい物件に縁があって新宿に移ってきました。当時は徹夜で仕事をすることも多かったので、明け方近くになっても開いている店があったり、編集者との打ち合わせや飲みに行くにも便利だったり、何よりいつも賑わっているのがいい。編集者も喜んで来てくれますし(笑)。仕事にも娯楽にもいい、それが新宿というまちの印象ですね。

耐火構造で免れた フィギュアと原画の数々

令和6年、能登半島地震が起こったときのご心境は

能登半島地震では、故郷の輪島市も甚大な被害を受けました。地震後の火災で、朝市通りの近くに住んでいた親戚に連絡を取ろうとしたんですが、3日ぐらい経(た)ってもつながらない。非常に心配でしたが、連絡を取り続け、4日目の夜にやっと無事だと分かった時はホッとしました。しかし家は全焼し、身一つで逃げたと聞いて、全力でサポートしなければと考えました。

「永井豪記念館」の被災状況はどうだったのでしょうか

この記念館は、2009年に輪島市が朝市通りにオープンしてくれたのですが、やはり大きな被害を受けていました。展示していた原画等は建物ごと全て焼失してしまっただろうから、また描けばいいと思っていたら、なんと耐火構造の展示棟にあったグレートマジンガー像や原画など100点余りの作品は無事だったと連絡がありました。町中の建物がほとんど焼け落ちてしまった中、特別に設備を施していたあの1部屋だけが無事だったことに驚き、また防災の大切さを痛感しました。

漫画やアニメで 自分なりの災害支援を

被災地に向けて行われてきた活動について教えてください

震災後はしばらく落ち着くまで東京でできる支援をしようと思い、記者会見をたくさんしたり、マスコミに働きかけて記事を書いてもらったりしながら、寄付の仕方を考えました。その一つが、ジュエリーデザイナーの梶光夫さんとコラボレーション制作した能登半島支援チャリティー作品「デビルマン宝飾輪島塗パネル」と「マジンガーZ宝飾輪島塗パネル」です。

また、私は日本漫画家協会の理事をしているのですが、そこで協会と協力して、色紙を集めてそれをオークションにかけようと思い立ちました。同じ理事の森川ジョージさんがとても頑張ってくれて、呼びかけに205人の漫画家が参加して、合計278枚の色紙が集まりました(**3面右上図**)。私の知り合いではない方や、普段は色紙を描かない有名な方もたくさん参加してくれたこともあって、オークションでの収益金は1億2,300万円にもなりました。

最後に、能登半島地震を経験しての防災や災害への考えをお聞かせください

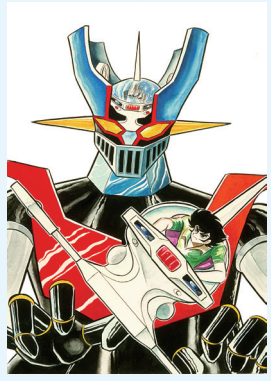
私は漫画家なので、漫画やアニメを通して、皆さんを元気付けることでお役に立ち、復興への支援ができたらと考えます。皆さんも、できることから、自分なりに防災や災害に対しての行動を起こしていただくことが大事ではないでしょうか。

総合防災訓練(3面)にぜひ参加を!

永井豪 ながい ごう

石ノ森章太郎のアシスタントを経て、1967年「目明しポリ吉」(「ぼくら」講談社)でデビュー。代表作に「マジンガーZ」「デビルマン」「ドロロンえん魔くん」「キューティーハニー」など多数。映画化、アニメ化された作品も多く、日本のみならず海外にも多くのファンを持つ。

©ダイナミック企画・東映アニメーション、
©ダイナミック企画・飯坂友佳子・東映アニメーション
©1998 永井豪・石川賢／ダイナミック企画・「真ゲッターロボ」製作委員会



©永井豪／ダイナミック企画